

公同礼拝

2025年3月16日(日) 午前10時30分
 午後4時

司式 牧師 姜 脛米
 奏楽 大澤葉子

- 前 奏
- 招 詞 ヨハネによる福音書4章23～24節
- 讃 詠 546
- 主の祈り
- 聖 書 詩編22編2～6, 25節 (旧852)
マタイによる福音書27章32～66節(新57)
- 祈 禱
- 使徒信条
- 讃 美 歌 257
- 説 教「神の子の死と救い」 牧師 高橋和人
- 祈 禱
- 讃 美 歌 268
- 献 金
- 頌 栄 544
- 祝 禱

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
 礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

3月の祈り

時を越えて変わることなく御言葉によって御心を示し、教会を導かれる神に従い行くことができるように。

受難節にあつて、信仰の原点である主の御受難に思いを寄せ、祈りの時を大切にすることができるように。

年度末のそれぞれの働きが守られるように。

卒業、進学、進級と新たな歩みを迎える子どもたち若い人々が祝福を受けるように。

戦火が止み平和がもたらされるように。痛みを負う人々に慰めといたわりが与えられるように。

今日の祈り

レント・受難節にあつて、主の十字架への道のりを覚えることができるように。

主の御受難によって照らし出される人の罪の姿を知り、自らを省みることができるように。

教会を支える奉仕者を覚え、教会と幼稚園の年度末の歩みが守られるように。

主の御心に沿う平和が実現されるように。

「神の子の死と救い」 高橋和人

マタイによる福音書27章32～66節

ピラトの裁判から主の葬りまでは朝から夕のこと。主は引き渡され、引きずられて行く。鞭打たれた姿で。それは、主が自ら進まれた道だ。嘲笑と見物者、密かに同情する者の中を進まれる。さらし者となっている。そこでも主の十字架と死に触れる者が起こされる。

キレネ人シモン、兵士、強盗たち、通り過ぎるものたち。百人隊長たちと婦人たち、そしてアリマタヤのヨセフ。

全く異なる役割を果たす。しかし、沈黙の中に神の計画が実現される。シモンは十字架を負わされる。信仰の出会いは思いがけずもたらされる。兵士たちは命令の服従者。隷属していながら権威を笠に着る。隷従し、へつらいながら人を蔑み、辱め、見下している。知恵あるものたちはねたみ。真実を失い闇を抱えている。

通りかかったものたちが皮肉り侮辱する。自分が問われないとなれば人はいくらでも非難する。しかしその言葉に、神はみ心を明らかにする。

「他人は救ったが自分は救えない。」。主は自分を捨てて人を救われる。人は自分の醜さとみじめさに気づいていない。自分を知らないでいる。

その中で主は大声で叫び、死を迎えた。それは詩編の言葉だ。エリヤを呼んだと聞いたものがいた。主イエスの肉声が残された。人の最深奥の叫びを引き込まれた。

主の死は、神と人を隔てた神殿の幕、創造世界、生と死の境目を揺り動かした。異邦人の百人隊長たちが神の子を認めた。

そして、主に従い見守るものがある。力を持たない婦人たちは主の死と葬りの証人となった。ヨセフは葬りを行った。危険で困難な、また辛い務めとなった。主の復活は死から戻られたのではない。完全に死なれ葬られたものがそこから再び生きられたのだ。

多くのものは主の死を通り過ぎた。しかし、無言のものたちが主の出来事を受け止めた。主を愛するゆえに痛みと悲しみを負った者たちだ。主の死はただいたわしいのではない。人の闇である罪をかき集め、背負い込むようにして死なれた。そこに罪人の救いがある。